

メタモルフィックソール中の角閃岩中の構造解析：オマーン，ワジタイン地域

Structural analysis of amphibolites in the metamorphic sole beneath the Samail ophiolite, Sultanete of Oman

山浦 洋平[1], 青島 逸子[2], 小野寺 久美子[3], 溝上 周作[4], 釘宮 康郎[5], 増田 俊明[3]

Yohei Yamaura[1], Itsuko Aoshima[2], Kumiko Onodera[3], Shusaku Mizokami[3], Yasuo Kugimiya[1], toshiaki masuda[3]

[1] 静大・理・生地環, [2] 静大院・理工・生地環, [3] 静大・理・地球科学, [4] 静大・理・生地, [5] 静大・理・環境

[1] Inst. of Geosciences, Shizuoka Univ., [2] Geoscience, Shizuoka Univ., [3] Inst. Geosci., Shizuoka Univ.

ワジタイン地域のメタモルフィックソールの角閃岩中で非対称組織を調べた。調査の結果、剪断センスは北東から南西方向に上盤(オフィオライト)が移動したものと判断できる。この方向は従来言われているものと同様である。

ワジタイン地域のメタモルフィックソールの角閃岩中で非対称組織を調べた。非対称組織はほとんどが斜長石のポーフィロクラストシステムであったが、フィッシュ状の構造も見られた。これらの組織は超塩基性岩との境界付近には見られず、そこから数十メートル離れたメタチャートユニット直上、それよりも超塩基性から離れた位置にも見られた。

これらの非対称組織から剪断センスは北東から南西方向に上盤(オフィオライト)が移動したものと判断できる。この方向は従来言われているものと同様である。